

第1部会(第3回)意見集約表(案)

資料1-1

審議内容:市民活躍に関する部分



委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見
金子委員	1	P71	重点戦略	「重点戦略の位置づけ」の記載に、「産官学金労言士」というフレーズが使われているが、この言葉については、市民はどこに入るのかという批判があることから、敢えてこの言葉をここで使わなくてもいいのではないか。 他とのつながりがあるため残したいということであれば、国の第1期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中では、「住民に加えて産官学金労言士との連携」という使い方をしている。これだけ施策に住民主体、市民活躍という言葉が記載されているのに、この言葉の中には市民が出てこない。ここは市民をしっかり入れて、「市民及び産官学金労言士と協働しながら」といった表現にしないと、著しくこの計画の中で整合性を欠くと思うので、検討してほしい。
長谷川委員	2	P85～P87	重点戦略6	重点戦略6について、共生社会で様々な背景のある人、誰もが心豊かに暮らせるということは、確かにかなり幅が広く、いろいろな人が含まれるのはよく分かるが、具体的な施策では、まず、健康福祉、特に高齢者向けの内容が先に記載されていて、そのあとに、市民活躍に関わる内容が続いている。市民活躍の部分が少し後ろの方へ押し込まれていて、あまり目立たない感じがする。健康福祉と市民活躍の部分を一緒にする必要があったのかということも含め、構成をもう少し検討した方が良いのではないか。
五十嵐委員	3	P85～P87	重点戦略6	重点戦略6について、住民自治の基盤である町内会、自治協議会、コミュニティ協議会などの活動に対する支援が重点戦略の中には盛り込まれているが、担い手の育成・確保については記載されていない。それが最も大事なことではないかと思う。地域活動を継続的なものにしていくには、担い手の確保という部分が必要であるため、これも重点戦略の中に加えてもらえると良いと思う。

意見集約(案)
「重点戦略の位置づけ」に記載の「産官学金労言士」という記載について、市民が含まれていることがわかるような表現にしてはどうか。
重点戦略6の具体的な施策に記載する分野、施策の記載順について、構成を検討してはどうか。
重点戦略6について、地域活動の担い手育成・確保に関する内容を追加してはどうか。

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見
石本委員	4	全体	政策1 市民活躍	男女共同参画の推進について、国のSDGSの実施指針の中でも、ジェンダーギャップの解消の観点は優先課題に挙げられているため、「施策2 男女共同参画の推進」だけに限らず全般的にぜひ記載した方が良いのではないかと。新潟市の方向性を示すという意味で、加えても良いのではないかと。と思う。
杉原委員	5	全体	政策1 市民活躍	市が政策を進めていくうえで、ジェンダーの問題を常に考えながら、さまざまな政策に取り組んでいくという姿勢を見せてほしいと思う。いわゆる「健康」に関しては、男性目線になってしまっているような印象を受ける。スポーツをする女性の割合や、女性の健康診断受診率が低いなど、そういったところをより意識して、女性の身体をさらに守るという目線が必要だと思う。全体的な政策を行ううえで、そういったさまざまな問題について、より自覚して進めていくという文言を加えてもらえたらと思う。地域づくりだけではなくて、いろいろな分野にまたがる内容なので、一言お願いしたい。
山崎委員	6	全体	政策1 市民活躍	男女共同参画の部分だからジェンダーの視点が入っているのではなくて、個別に一つ一つのところにジェンダーの視点が必要だという記載を入れ続けるということがとても大事だと思う。それにより、計画全体としても、いかにそれが大事かということが分かるような書き方も必要ではないかと思う。
西條委員	7	P107～108	政策1 市民活躍	新潟市では、男性の育休取得率がここ数年上昇しているなど、現総合計画の期間で改善された部分もあると思う。「新潟市の現状/将来を見据えた課題」について、依然として足りないところが多くあるという点が強調されているが、新潟市では男性の育休取得率が上昇してきているという、現計画から改善された点も現状の中に記載したうえで、その一方、依然として足りない部分があるという作りにした方が良いのではないかと。
金子委員	8	P109	政策1 市民活躍	施策1の②「持続可能なコミュニティづくり」について、一つめの白丸に、「活動の負担感など運営面に課題のある地域団体が、活動内容の整理や運営体制の整備など」との記載があるが、どちらかというと、軽くしていく、減らしていくといった方向に読み取れてしまうので、ぜひこれは言葉を変えていただきたいと思う。例えば、「活動の継続性」といった言葉の方がふさわしいのではないかと、あるいは「活動内容の整理」とするよりは、幅広く網羅するような「検討」という言葉でも良いのではないかと。



意見集約(案)
市の方向性を示す意味でも、市がジェンダーの問題を常に考えながら様々な政策に取り組んでいくということが分かるような記載にしてはどうか。
「新潟市の現状/将来を見据えた課題」の男女共同参画に関する部分について、現計画から改善された点も記載したうえで、その一方、依然として足りない部分があるという作りにはどうか。
施策1の②「持続可能なコミュニティづくり」について、活動を軽くしていくといった方向に読み取れてしまうので、表現を変更してはどうか。

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見
金子委員	9	P109	政策1 市民活躍	施策1の②「持続可能なコミュニティづくり」について、一つめの白丸に、「改善に向け自ら行う取組を支援します」との記載があるが、この部分にぜひ「地域経営」という言葉を表記していただきたい。極端な超高齢化や超少子化を乗り切るためには、地域コミュニティの改革が最も重要だと思うので、言葉としてはいろいろ付け加えたいところではあるが、一番端的に表せるのが「地域経営の強化」という表現だと思う。
石本委員	10	P109	政策1 市民活躍	施策1の①「地域団体・市民団体の活動支援」の2つめの白丸について、このような活動というのは地域課題の解決に向けた活動だけをしているわけではない。例えば地域の魅力を向上するための活動や、いろいろな人たちが参加できる居場所を作る活動など、さまざまな活動があると思うので、地域課題の解決に向けた活動と限定しない方が良いのではないか。この部分の表記を、例えば「地域の魅力向上」、「課題解決等に向けた活動」といった表現にした方が良いと思う。
五十嵐委員	11	P109	政策1 市民活躍	内閣府の男女共同参画局で掲げている男女共同参画においては、あらゆる分野で活躍できる社会をイメージしており、地域力の向上ということも挙げられていることから、男女共同参画の視点をここに入れるべきではないかと思う。施策1の③「活動の担い手育成・確保」の1つめの白丸に、「様々な分野の市民公益活動の支援などを通じ、」の後に、「男女共同参画の視点を持ち、地域で活躍できる人材の育成」といった言葉を入れてもらえると良い。
山崎委員	12	P110	政策1 市民活躍	施策2の③「DVの根絶とDV被害者への支援体制づくり」について、被害者に対する支援体制づくりは絶対に必要だが、一方で、加害者の方々を更生していくという点も、とても重要だと思っている。加害者に対する更生プログラムの実施など、加害者への対応についても、加えるかたちで、検討してもらえればと思う。



意見集約(案)
施策1の②「持続可能なコミュニティづくり」について、この部分に「地域経営」という言葉を表記してはどうか。
施策1の①「地域団体・市民団体の活動支援」の中の「地域課題の解決に向けた活動」という記載について、課題解決に限定した記載にせず、地域の魅力向上なども含む表現に拡大してはどうか。
施策1の③「活動の担い手育成・確保」について、男女共同参画の視点を入れてはどうか。
施策2の③「DVの根絶とDV被害者への支援体制づくり」について、加害者の更生に関する内容を加えてはどうか。

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見
山崎委員	13	P108	政策1 市民活躍	「人権に対する関心」という記載があるが、関心という言葉で良いのだろうかと思う。人権は市民活躍すべてにかかわってくる部分なので、その点をしっかりとおさえていく必要があると思う。記載について、ぜひ「人権教育や啓発を積極的に実施していくことが重要です」とし、積極的という言葉を追加してもらえるとありがたい。
山崎委員	14	P112	政策1 市民活躍	施策5「人権を尊重する社会の推進」について、人権意識を醸成するということは、そのうち醸成されていくのだという記載になっているが、極めて重要なことであるため、人権意識を養うという言葉に置き換え、醸成されるのを待つのではなく、積極的にかかわって人権教育や啓発を推進していくという言葉に置き換えてもらえると良い。例えば、「価値観などにかかわらず、お互いを尊重する人権意識を養うことは極めて重要なことです」など、しっかりと押さえたうえで、「関係機関や団体と連携・協働」につなげていくと、言葉としてはしっかりと伝わると思う。
山崎委員	15	P112	政策1 市民活躍	施策5「人権を尊重する社会の推進」について、①の白丸に「性別、年齢、障がいの有無、国籍、出身、性的指向」と記載されている中に、性自認という、自認する性をぜひ加えていただきたい。
金子委員	16	P113	政策1 市民活躍	政策指標A「地域活動に参加した経験のある市民の割合」について、該当部分の施策1の表題では、「地域団体・市民団体の活動の推進」と記載していることから、「地域活動」だけだと、半分ほどしか網羅していないという印象が出てきてしまう。地域活動と言われた場合と、市民活動と言われた場合は対象になるものが違うため、市民活動に参加したことがあるかどうかについても数字として押さえ、「地域活動・市民活動に参加した経験のある市民の割合」といったかたちにする大変良いと思う。



意見集約(案)
「人権に対する関心」及び施策5「人権を尊重する社会の推進」について、人権教育や啓発の実施に対し、積極的な姿勢が伝わるような表現に変更してはどうか。
施策5「人権を尊重する社会の推進」について、性自認に関する記載を加えてはどうか。
政策指標A「地域活動に参加した経験のある市民の割合」について、市民活動も含まれるような表現にしてはどうか。